

## アメリカにおける

### 5才児教育の保育・指導内容を考える〔1〕

—— “A Guide for the Education of  
Five-Year-Old Children in Texas” を中心に ——

中 谷 陽 子

はじめに

我国の幼稚園教育は、一昨年、ちょうど 100年目をむかえ、あらためて就学前教育の発展の過程を振り返り、この年月の歩みを、その間に複雑に影響を及ぼした歴史上の諸事実とともに見つめ直す機会を、我々は与えられたわけである。

日本の幼稚園は、保育に関する多くを、ドイツ、そしてアメリカから取りいれている。特に、第2次世界大戦後の教育は、アメリカの影響を強くうけているといえよう。

アメリカ自身も、ドイツ・イギリス・そしてフランスから保育の多くを学びとり、それを独自の、アメリカに最も適した教育に発展させたのである。アメリカの教育は、周知のように、国全体の教育的姿勢に関する公の方針は提示されてはいても、教育制度やその内容に関して、それを決定する権限・責任は各州にまかされている。したがって、州教育当局は、それぞれの法律によって具体的教育方針を決めているので、州ごとに異った、特色ある教育実情に出あうわけである。保育も、当然この対象となっている。

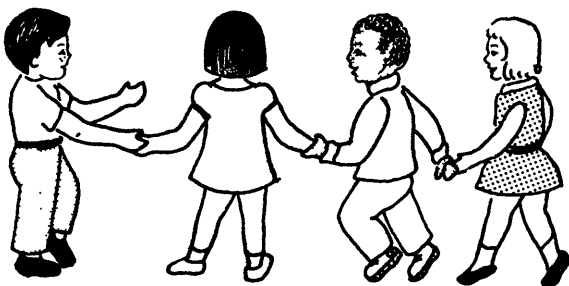
我国に多くの影響を与えているアメリカ教育であるが、その具体的内容紹介のうち、あまり見受けられないものとして、教育庁が幼稚園（5才児教育）むけに示した“指針”があげられるであろう。

筆者は過去2年間、テキサス州に住み、教育体制の実情に触れ、また二人の子どもを保育学校 (nursery school)、幼稚園 (kindergarden)、そして小学校 (elementary school) に通わせた体験もあり、テキサス州の幼稚園に対して公刊されている“指針”を紹介したいと考えたわけである。

“指針”は、幼稚園(就学前1年間の保育)の教育目標にはじまり、教師に関する項目、5才児の特色、教育内容、日課、園舎、教材、環境その他に及んでいるが、本報告には、5才児の特色及び教育内容を取りあげ、別の機会において、全内容紹介の企てを考えている次第である。

“指針”は、Texas Education Agencyから出された、“Guide for the Education of Five-year-old Children in Texas”で、日本のそれにあてはめれば、文部省からの幼稚園教育要領に相当するものである。

次にその内容を紹介する：



## §. 序

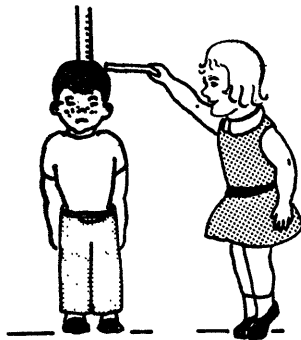
1969年、テキサス州議会は公立幼稚園を、州財政で援助する法律を立法化した。同年に州教育庁(委員会)は、幼稚園教師の資格確定を採用した——就学前教育の教師は、小学校教員免許とともに、幼稚園教育資格証書を持たねばならない。

この指導書(Guide)は、テキサスの学校が就学前教育プログラムからはじまり、すべての5才児に対して教育をほどこすための指導書である。また特殊領域における教師に対しての指示も、含まれている。

教材は、各領域の専門家と協議を重ね、テキサス教育庁の初等教育のスタッフ(the Elementary Education Staff of the Texas Education Agency)によって準備されたものである。

### §. 5才児の特徴

保育における幼児の活動案を計画する場合に、各年齢段階ごとの子どもの特色を明らかにすることは、何よりも基本的なことである。つまり、子どもの基本的な要求や興味を知ることによって、日案の計画をはじめ、目標にあった保育の方法を得ることができる。



子どもの発達には、勿論個人差のある各々独得なものではあるが、その成長や学習は、平均的なパターンに沿っていると言えよう。成長の速度は、子どもひとりひとりによって異っており、個人の様相を十分に考慮すべきものであるが、一般に子どもの成長(growth)を考えると、それは累積的——ある時期の子どもの経験が、次の発達段階に大きな影響を及ぼすというあり方で進んでいく——であると言える。

子どもには個人差があって、それぞれ発達のスピードが独得であることは、前に記したことであるが、そのために、5才児クラスといっても、一般に4才、5才、6才の子ども達の示す特色を持った5才児から成りたっている、少しも不思議はないのである。

次に示す特性は、通常5才児について言えることで、身体的・知的・社会的・情緒的の面から、具体的にあげることにする：

〔身体的 (physical) 〕

- 急速な成長をする

- 活動的である反面、疲れやすい
- 注意集中の間隔が、短い
- 細かい筋肉より、粗大な筋肉のコントロールの方がすぐれている
- 一般に、手の優先が発達している
- ある対象をじっと集中してみることは、むずかしい
- ことばの形体（language-form）を統制しながら学んでいく
- 伝染病ばかりでなく、普通の風邪などにもかかりやすい

#### 〔知的（intellectual）〕

- ある事がらを聴きとろうとした場合には、目的を認識して、中断などしない
- 非常に空想的で、創造的である
- 自分自身が住んでいる世界に、好奇心を持つ
- 実験が増えると同時に、コミュニケーションも統制とれたものになっていく
- 5感（five senses）を使いながら学習する
- 学習方法としては、実行・模倣・観察・探究・試行・調査・実験・質問等があげられる
- 学習は抽象的ではなく、具体的で、直接経験から学ぶ
- まだ力の限界があり、例えば学習・一般化・組織化・関係の引き出しなどにそれが見られる

#### 〔社会的（social）〕

- 新しい経験を獲得していく力がある
- 他の子どもとの交わり（fellowship）を求める
- 注意深く観察し、熱心に物事に参与する
- 友達と分担したり、共同で作業したりができる
- 子どもに関係を及ぼす世界に好奇心を持つ
- 一生懸命に、是認・賛成をとろうとする

〔情緒的 (emotional) 〕

- どこかに所属したいという意識がある
- 保護されているという感じがほしい
- 家庭・家族に対して、強い感情的連絡を持つ
- 情緒的安定が、急速に育つ
- 自我意識 (selfimage) が発達していく
- 性的同一視が発達する
- 性的役割を学ぶ



#### §. 幼児期のプログラム (指導案)

就学前の子どもの教育案は、小学1年用のプログラムの引きおろしではなく、5才児の興味・要求にあった、ユニークなものでなければならない。

指導案は、受容的な環境の中に用意されるものであるが、教師の計画・指導のみによらず、子どもも選んだり、方向づけが出来るような内容が提示されなければならない。

日課は、幼児が視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚等感覚を通して学ぶところの学習経験 (learning experiences) を中心に組み立てられるのが望ましく、具体的で、十分に検討された、しかも感覚にうったえるようなものであってほしい。

日課の中で子ども達が学習・経験する内容は、言語科学・社会・算数・科学・健康と安全・家庭生活・栄養・創造芸術・劇・音楽などである。一般に幼児の経験は、課題がばらばらに与えられるよりも、2個、3個と組みあわされて一連の課題になる方が、学習が相互に関係しあって、より発展がある

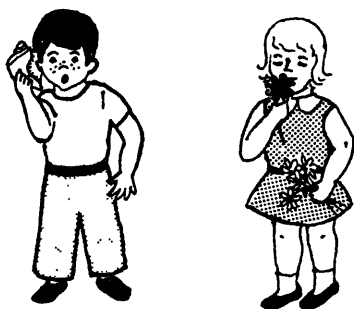
と考えられている。

例えば幼児の学習経験は、会話・あるテーマに関する討議・来訪者とのおしゃべり・劇化・あそび・創作的芸術・うた・リズムなどの中に統合されてくるのであって、それらは幼児の基礎的概念・熟練・可能性・態度・知識などの発達を助けるものである。

幼児の学習経験は、具体的でしかも多種感覚的でなければならないが、そのために教師は、幼児の成長・発達を十分に理解したうえで、その手段・方法や手続きを工夫してほしい。

専門家は、就学前の子ども達にワークブックやワークシートなどは大して役にたつものではないと、口をそろえて言い、それにかわる、より有意義な学習法の検討を提案している。

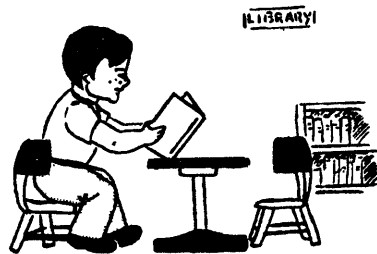
教室（classroom）は子ども達の実験室になる場所であり、いつも明るく、気持のよい雰囲気を大切にするが、それに加えて、教室の中には次にあげるような、常設の、耐久性のある学習センター（learning-center）を設けるのが望ましい：



- 芸術———水場や材料に近く、画架を使い易く設置する  
（art）
- 木工作———創造的に物を作るには、本物の道具を使うこと  
（wood-working）
- ブロック・コーナー——学習経験の豊かな広がりのために  
（block-area）

- 音楽センター——音楽をきいたり、歌ったり、楽器を弾くことのできるコ  
(music-center) ーナーを
- 家 事———友達と家族としての経験を再現してみる  
(house-keeping)
- 図書コーナー——童話や絵本をみる中で成長を助ける  
(library)
- 科学コーナー——観察・調べもの・発見などの設備を  
(science)

学習センターは子どもに、各自の興味をさぐり、あるいは今までやったこともない新しい分野への取り組みを可能にし、才能をのばすチャンスを与えるという場になるわけである。



### 言語科学

(Language Arts)

意志伝達の能力は、誰にとっても必要なものであり、その中でも話す・聞く力は、読む・書くの基礎となる。幼児が言語をコントロールする力を持つか否かは、その後学校・社会に進んでからうまくいくか、あるいは生産的活動がなし得るかをきめるものである。特に5才児は、言語を統制する力を急速にのばせる時期であり、周囲の人間と気持の伝達を十分上手にはかることができる年令である。(アメリカにおいて) 多人種の混った社会 (multiethnic society) では、子どもは自分の使っている通用語 (dialect) とはちがった新しい言語体系の集団に入ってくるわけで、そういうクラス状況は子ども

にとって負担であろう。教師は、その点で子どもがうまく変っていけるよう援助しなければならない。

5才児期は、それ以上の年齢層に比べてたやすく、新しい言語体制をとり入れることが可能である、つまり、2国語併用(bilingual)や2通用語併用(bidialectal)を実施するのには、理想的な年齢群である。

子ども達が家庭で使っている彼らの言語体型は、無意識的言語安定をはかるもので、子どもにとって大切なものであり、また家庭にもどったときには必要とするものであることを、教師は十分に認識していなければならない。教師は、子ども達が各自持っている言語型をやめさせるような働きかけは慎むべきで、より広い言語を追加吸収できるよう手助けすることこそ、大切なのである。

文化の型と同様、ことばを子どもに習得させる場合にも、他の領域との関連学習がよい。そして教師自身も子どもの持つ言語体系を十分に理解して、どのようにして新しい音や単語や文章を習得させるか、それをいかに全体計画の中に組み入れるかを研究しなければならない。

教師の子どもの受け入れだが、教師自身とはちがう言語・通用語を話すからといって、ことばの上で不足していると考えてはならない。彼らは身近かなところからその発音形体や文法形体を学んできており、ひと種類の発音や文法形体に精通しているわけだが、勿論それが次の言語を学ぶ場合の妨げになることもある。教師はこの点でも知っていなければならない。このように新しく加わる言語習得と、子どもがすでに取得した言語を将来のためにも確立させて進むという構えが、教師には必要である。





就学前教育プログラムで、子どものことばの発達をうながし、自己認知（self-perception）を成長させるものの中には、お話・詩・劇あそびなどが考えられる。お話（story）は、子ども自身に関する話、環境・出来事・動物・休日などの話。詩の鑑賞や、詩をもとにしたリズムや指あそびなど。劇あそび（dramaticplay）は、子どもの自由表現を力づけるもの。

保育の中で、教師が子ども達を援助しながら発達させる機会は、真に沢山あるが、その際の望ましい活動や方法には次のようなものがあげられるであろう――

#### 〈聞く（listening）に関して〉

- ・物語、詩、討論などを聞いて、質問をしたり、答えたりする
- ・物語のある一部分を語る
- ・考え方の順序を認識する
- ・あそびの中で電話を楽しむ
- ・マイクフォンを通して話をする
- ・友達のを考えをきく
- ・ゲームのやり方の説明をきく

#### 〈話す（speaking）に関して〉

- ・ひとりずつ経験話をする
- ・家から品物を持参して、どんなものかを見きわめて話す（identify）
- ・科学的教材（science-material）について話す
- ・活動を実行するための計画だて
- ・フィルムをみて、それについて話しあう
- ・クラスの教師・友達の名前をおぼえる
- ・校内の校長・看護婦・用務員その他の職員をたずねて話をする
- ・教師と子どもの共同の計画づくり（teacher-pupil planning）に関与する
- ・地域の協力者をたずねたり、その人達にスクール訪問をしてもらう

- 家族やペット(愛玩動物)のことを皆に話す
- スクールの往復, 教室内, 運動場での安全性(safety)について話しあう
- 学習センター(learning center)をたずねあって話しあう
- 感覚的印象を説明する
- 劇あそび(dramatic-play)の中で話す
- 仕事について話す
- 絵・写真について話す
- 人形を使いながら, 考えや感想を表現する

#### 〈文学(literature)に関して〉

- お話を読んだり, きかせてもらったりする
- マザーグースやその他, リズムのある詩をきく
- 図書コーナーで本を見る
- 家庭から本を持参し, 交換する
- 物語・詩・韻文などをドラマ化する
- 公立図書館を訪れ, 利用する

#### 〈読む(reading)に関して〉

- 口頭(oral)での語いを増やす
- 良い聞く習慣を形づくる
- いつでも自分の考えを表現できる力を養う
- 有効な経験の背景(background)を積みあげる
- 言語能力全般の発達
- 確かな自我像(self-image)を抱く
- 教室内外で, 記号(sign)や名前の認識を増やす
- 環境・ことば・詩などを通して, 音への認識を増やしていく
- 教師の書く説明文・物語などをよく見る
- 眼球の左→右への読みの移動を発達させる

- すでに読みはじめた子どもへは、機会を用意すること

〈書く (handwriting) に関して〉

- クレヨン・はさみ・筆などを用いることで指の筋肉を発達させる
- 手先を使う教材(manipulative object)を使って、器用さ (dexterity) を増やしていく
- 物語やノートを書きうつす(dictate)とき、教師は細かに書くのを見ること
- 書くことへの興味(interest in writing)を刺激するために、教師は記号を書いてみる

## 科学 (Science)

科学は、就学前教育の中では大切な部分である。教育する知識に順序はないが、様々な科学的活動ができるような設備を備えるのは望ましいことである。

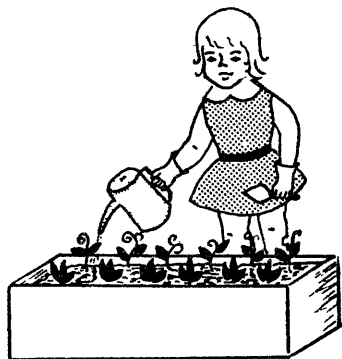
就学前指導案の中で、基本的科学の内容と考えられる項目は、観察する・

測定する・数を使う・空間/時間を使う・関係・分類するなどである。

子どもの興味を発展させるためには、子どもに質問したり、触れたり、臭いをかいだり、見たり、推測したりさせることが必要である。その中に指導の手がかりやきっかけをとらえ、新しい知識や科学的に基礎となる経験を盛りこんだ教育プラン(program)をたてることである。

このような順序で、教師は質問・工夫を重ねながら子どもの学習を方向づけていくのである。

用意された学習の場＝学習センターのひとつに科学センターがあるが、必ずしも子どもの科学的経験はすべてそこで起こるように計画されなくてもよいのである。色々な活動の中に科学的動機づけが存在することに、教師は気



づくであろう。子どもは学習者(learner)であって、絶えず新しい興味にひかれて、知らないものへの解明の努力をしていくのである。

幼児にとって、雨の日、晴天の日、風の吹く日、霜、氷や雪などはすべて不思議な事がらになり、クラスの皆と話しあうには、すばらしい題材になりうる。

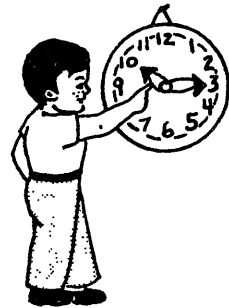
また、水族館・陸棲動物飼育所・学校動物園・庭などに出かけて経験を増やすことは、子ども達の質問、自己発見、科学的理解、理論だった結果など、興味や成熟の基本になるものを発展させ、大変有効なことである。

## 数 学 (Mathematics)

子どもの数の経験は、家庭で出会う多様な経験の中から始まる。“指針”の指導案は、子どものこうした発達をさらにすすめるものである。数に興味を示し始めたら、棒さしあそび(peg-board)など、なかなかよい。

数学の出発点は、数の概念を含む、具体的な経験を準備するところからはじまり、それは、次のようなものかと考えられる：

- カレンダー、時計、電話、本の頁などに登場する数字の扱い方について話しあう
- 子どもや品物を1 対にする
- ゲームや劇・歌などを数える
- 教材(紙、ハサミ、クレヨンなど)を数える
- 天気図やカレンダーを保存しておく
- 特定の時刻のために、時計をよくみる
- 周囲を見まわし、形(shape)の発見・認知をすすめる
- お金の図表(money-chart)をつくって、お店ごっこ(playing store)をする
- 指あそびや歌を通して、順序を学ぶ
- グループごとに行進する
- 1 ヤード尺、物さし、はかり、入れ物などを使う



- 幾何的な形やいろいろな長さを使って、仕事をする
- 物を数える
- ゲームに必要なだけの子どもを選ぶ

## 積木(構成)あそび (Block-Building)

積木は5才児に非常に巾広い学習経験をもたらす。ひとりで、あるいは友達と、子どもは大小とりまぜて積木の組みたてをする。

積木あそびを通して、子どもは自分の考えを表現することが出来るが、それは、組みたてたり、整理したり、測ったり、数えたり、問題解決をしたりする行動をその中で経験するからである。

大型積木 (large hollow block) は、筋肉の統合発達 (developing muscular coordination) の機会を子どもに与える。そして組みたてられたものは、次のあそびをひろげていくのに役だつ——組みたてた家は“店や駅”に使われていく——。

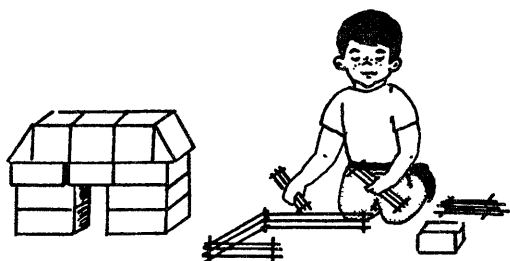
積木あそびには、子どもの考えや性格がおりこまれ表現されていくが、何日もあそびを続けて経験していくうちに、例えば、美しさ、こざれいにする、順序、役だつなどの概念が表現されてくるのである。

積木は大きさとその量の双方に注意するのがよい。十分な量は、それだけあそびを発展させることになる。

また、積木置き場は、人の往来のあまり多くないと、低いたなを設け、

手軽に自分で出しあそび、また終了後もがんばってかたづけが出来るようにする。

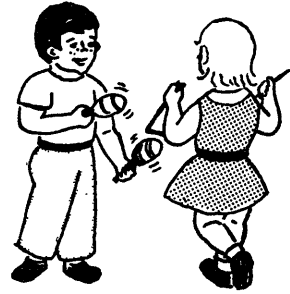
積木あそびには、大きさのつりあった付属おもちゃがあると、内容がより豊かになる。たとえば、乗物、人間、動物などのおもちゃが加わると、積木



あそびはもっと魅力的になるであろう。

## 音楽 (Music)

幼児の一日を通して、音楽は自然な、しかものびのびした活動である。思いつきや経験その時の気分などを創作的に表現できるものは音楽である。よく観ていると、子どもは自分の仕事やあそびにあわせた歌をすばやくつくって歌ったりする。



また楽器にあわせて声を入すチャンスも沢山ある。上手にとはいわずに、自分で色々な楽器から色々な音を出しているうちに、リズムの実験や音の組みあわせを体験する。

さらに音楽をきく過程で、音楽の変化を感じるのである。指導の中では、しばしば音楽に反応することを要求されたりする。

以上のことはすべて、後々の理解力や鑑賞力を育てるうえで必要な、基礎的経験と考えられる。

その実際例を次にあげよう：

- メロディをきき、歌う・楽器を弾いてメロディを再演する
- 音楽の律動(pulse)に次のよう反応する  
手をたたく・スキップする・ギャロップする・つま先で歩く・体をのばす  
・体を曲げる・とびあがるなど。
- 自分の気持を、指の表現(finger-play)や体でとるリズム (body-rhythm)も交えながら、音楽への動きの中で説明する。
- 歌について自分の好嫌を感じとる
- リズムの創作やパントマイム(無言劇)(pantomime)による表現
- リズム楽器を利用して、各自の名前を、アクセントなど説明し、リズムで表現する
- 歌のレパートリーをこしらえる

## 芸術 (Art)

幼児の姿をみると、好奇心が旺盛で、制御されておらず、創作の才があり、工夫に富んだ存在であることがわかる。そうであるから幼児に、組織だっていない教材、たとえば、クレヨン、フィンガーペイント、紙、粘土、水、砂などを用意することは、言語表現がまだ不



十分な幼児にとって、考え、感じ、思いつきなどの表現に有意義な価値を与えるものである。

創作活動は、子どもに大切な仕事である。それは、子どもの力——つまり記憶、構成、想像、表現——などを十分に発揮させ、彼の学習を拡大するからである。

教師は、子どもの創作活動を促進、援助するにあたり、活動の場を整備したり、材料や道具のうけいれを便利にして、はげましと指導をくりかえすことが必要である。さらにまた、“表現の自由の価値が高い”ことを忘れてはいけない。子どもは、芸術活動の中で毎回、製作を仕上げなければいけないとは感じていないのであって、大切なことは、表現を存分にすすめる、過程なのである。

## 家政(庭) (House-Keeping)

学習センターの中の家庭センター (house-keeping center) は、5才児が友達といっしょになって、家庭における家族の活動状況を、新しいアイディアや経験を加えながら発展させる場である。



あそびの中に子ども達がその考えや感想を表現するとき、家族背景を語る

もので、しかもその子どもの意識の非常に深いところにあるものが、引き出されることがある。

家庭センターは、次のようにその準備が整えられていれば、きっと年間を通じて、多くの子ども達に人気があって、活動の中心になると考えられる：

- 男児用女児用の正装の衣類
- 実生活そのもののような設備
- 変化のある、新鮮なあそびの道具だて

などの準備がなされている場合。

## 社 会 (Social-Study)

5才児は非常に注意深い観察力をもっている。そして社会に対してよき協力者でもある。自分の住む地域の人々から自立しようという気持と同時に、そうした人々への相互依存の精神も育てつつあり、5才児として、徐々に根本的社会概念(basic-social-concept)を育て、準備が来ている。

かたわら、消防自動車の運転席によじのぼったり、食料品店のカウンターのうしろに立ったり、一生けん命社会の役割をやってみようとする。TVや映画などで見て得るより、子どもが家庭や学校や近所などで直接に出くわす経験(first hand-experience)の方が、はるかに現実的で意味が深い。

社会学習経験(social learning experience)を満たす具体的な活動としては：

- 野外保育(field trip)一動物園、消防署、博物館、病院などへ
- ドルハウスや積木の家の中で家族人形(family-figure)を使って遊ぶ
- 家庭生活物語を読む——都会・郊外・田舎の生活について
- 父親や母親の職業・仕事について話しあう
- 自分達の家族について話す
- 色々ちがった家を見に、近所へ散歩に出る。





- 世界のあちこちの家庭の話を物語で読む
- 地域に住む、協力者をクラスの客人に招く
- 他人の所有物についての関心を話しあう
- 郵便集配人の郵便物配達を劇にしてみる
- The Pledge of Allegiance (忠誠の誓い)を習う

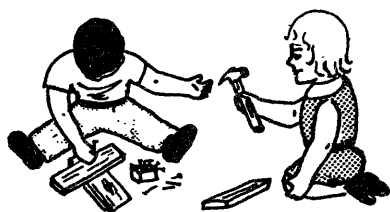
I pledge allegiance to  
the flag of the United States of America  
and to the Republic for which it stands,  
one Nation under God, indivisible,  
with liberty and justice for all.

- 国の祝日について学ぶ
- 遠方の地域の子ども達が、どんな生活をしているか話す
- 天文、岩石、他の天体への着陸など、新しい課題のニュースを話しあう
- 習慣や衣類など異なる人達の文化を見せてもらう

### 木工作 (Woodworking)

木材や大工道具を実際に使うことによって子どもは大きな筋肉(large muscle)とこまかい筋肉(small muscle)、目と手の動作の統合(eye-hand coordination)を発展させていく。

木工作をすることで、5才児は新しい材料や道具を試みたり、筋肉を鍛えたり、わざをのぼしたり、あるいは創作的表現をするなどの機会に出あい、



友達と分けあったり、順々に使ったり、感謝したりして、社会的人間関係をも発展させる機会に恵まれる。

また、木工作をやることで、子ども達は色々な経験をし、学ぶこと

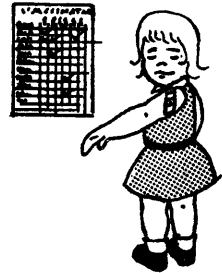
も多い。例えば――

- 道具の使用上の注意を学ぶ
- 製作品を作りあげるうえで、様々なアイデアを育てる
- グループ計画の中で、友達と仕事をする
- 安全性の規則を重んじ、コントロールすることを学ぶ
- 援助をうけたり、反対に人を助けたりする
- 仕事の順――計画をたて、デザインを描き、測り、組みたて、仕上げる――を経験する

### 健康と安全

(Health and Safety)

教師の責任のひとつに、子どもの健康がある。その大切さを認識し、絶えず注意を払うことが必要である。また5才児教育の中で、健康と安全の教育 (health and safety education) は非常に大切なものであって、もしこれが不十分であれば病気や事故が、子ども達の身体良好状態をくずすかも知れない。そして教育のみならず、教室・運動場では、安全が保障され、障害物を取りのぞくなどの配慮がなされなければならない。



“健康”の指導内容は、健康な環境、望ましい健康習慣の指導、健康の不足状態の子どもの見わけなどであるが、子ども達の方は、正しい衣類の着用法、適切な食物のたべ方、休息、運動、咳やくしゃみの時に口をおさえることなどを通して、健康の原理を教えられる。また日々の生活の中で、清潔と食事前の手洗いの実行がすすめられ、教師やスクール看護婦の健康チェックも日課と考えられる。

安全の規則は、例えば子どもの住む地域の安全が十分に整備されていたとしても、教育されるべきであり、規則や法律に対する正しい態度を身につけさせたい。

特に新学期には、指導も予防策も徹底的に行われるのが必要で、一般に事

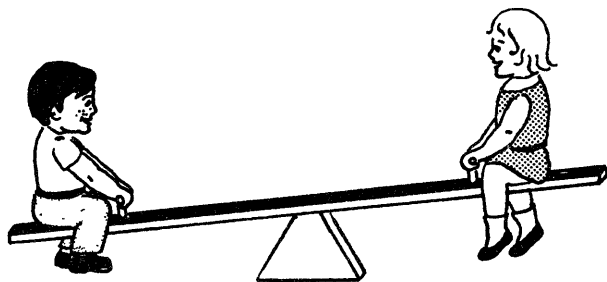
故が生じた場合には、教師は子どもひとりひとりの正確な事故報告書(incident report)を提出しなければならない。

安全教育(safety instruction)として教師がすすめていく内容には——道路を横断するときは左右を見る・車と対面しながら歩く・徒歩で帰宅するときは、きめられた道順で帰る・帰宅したかどうか親は確認する——などがある。

幼児に払われる安全のための注意、危険物のとりのぞき、遊び場にめぐらす柵など、注意深い観察や指導で、教師は常に子どもの健康と安全を保ち、正しい行ないの指導を続けていくべきである。

### | | |-----| | 体 育 | |-----| (physical education)

5才児の身体発達は、精神的発達(ex. 自我発見)も含めて全体発達に直接影響を与えるものである。たとえば、子どもは筋力、体力、運動神経の統制などが増すにつれて、自分自身を有能な、独立した、ひとりの人間として認識することができる。



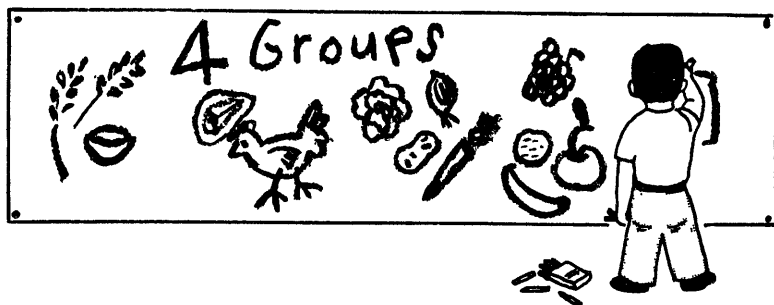
こうした身体の成長に最も適した子どもの活動は、活発なあそびと自由なうごきであろう。具体的な身体的活動をあげると：

- ・自己管理や自己訓練
- ・精神的緊張の解放
- ・友達との会話や相互関係を通しての社会的発達
- ・交替でする・一緒にする・リードする・指示に従うなどの経験

- ・ よろこび、希望、恐れなどをあそびの中に表現
- ・ 目と筋肉の統合作用の増進

## 栄養・食物 (Nutrition)

食物についてどのような感覚をもっているかは、子どもが家庭で身につけてくる。教師は、食物に対する家族の態度や実践を知っておくことによって、教室で指導することと家庭での実践が食いちがうというような混乱を防ぐことができる。家庭の態度・実践といわれるものとしては、成長や発達に必要な食物を提供する能力・食事習慣・健康や食物に関する態度などが考えられるが、教師が子ども達にどのような教室経験をさせるかを決定する場合にも、家庭での指導の基礎が役立つと思われる。



このような指導は、子どもの経験する日課(daily-program)を豊かにするだけでなく、家庭での実践を補ったり、家族の洞察を広げたり、家庭と学校の橋わたしをするものである。

食物・栄養の教育は、子ども達の前に必要以上に多くの科学的情報を並べたててはいらない。効果的な学習経験のためには、基礎的食品(物)群——ミルク・パンやシリアル・果物や野菜・肉類——が役立ち、それを図示した色刷りの、興味のわきそうなポスターは、学習用だけでなくそれを目的にした部屋のかざりとしても、大いに利用できる。

5才児の身体的・社会的・知的そして情緒的各面の発達をすすめるための、食物・栄養のためのプランは、次のようである：

- 食物ごとに異なる食品のリストや、基礎的食物群(basic-food-group)を母親を交えながら知る
- 実地見聞の経験——例えば、菜園、農場、肉屋、食料品店、パン屋(工場)鶏や魚の孵卵所、料理店・コーヒー店・喫茶店など。そこでは、食物がどのように成育し、生産され、調理され、売られるかなどを観察し、そこでその仕事にたずさわる人々と話すことも必要である
- 教室のプランターや菜園などで、野菜(レタス・人参・赤かぶ)などを育てる
- 教室内での創造あそびのために、食料品店、市場、台所、食堂などの設備を用意する
- 食物群を基礎材料にした、ゲーム・パズル・物語・うた・詩・絵などを試みる
- “成長にはどのような食物が必要か”ということをテーマにしたゲームなどでは、本物の食品のかわりに、絵や写真を使うとよい
- 昼食の献立を復習したり、その食物組合せを考えてみる。グループに分れて食事したり、自分達のお行儀についても話しあう
- “食物まつり(food fair)”を開催して、そこでは成長に必要な食物を中心に、展示会、ポスター、小喜劇、歌などを計画する
- 食事場面(家庭での、学校での、市中の食堂での)を劇化し、役割演技(role-playing)する
- 食物の基礎4群をもとに食事の計画づくりをし、教室での試食会のために、母親から一品料理を提供してもらう
- “ミルク”の価値やその出所について話しあい、そのあと農場へ行って牛をみたり、農場や酪農場を紹介したフィルムをみる
- 指導にのっとって、4つの基礎食物群をとりいれて、お弁当パーティ、お客さんごっこ、ピクニックなどを計画する

おわりに

アメリカの教育の特色のうち、大きなものは、州ごとに独立した指導形体である。全体の傾向としては、公教育をより徹底させようとする姿勢、また、

一時期大変にさげられた、学習重点の知識教育を通して、再び幼児を見直す教育に落着きかかっていること、さらに連邦経済機会局によって計画された、ヘッド・スタート・プログラムに代表されるように、文化や言語・生活レベルの複雑なアメリカという社会の中で、すべての子どもに等しく、教育の機会を与えようとする計画などが揚げられよう。

ここでとりあげたTexas州も、歴史をひも解けばすぐにわかるように、かつてメキシコ領であり、地理的にも国境ぞいにあることから、現在もメキシコとは非常に濃厚な関係があつて、幼児期および小学校教育の初期においては、

- ・文化的に異った子ども達

(culturally different children)

- ・英語を喋らない子ども達

(non-english speaking children)

- ・教育の機会を得られない子ども達

(educationally deprived children)

などの配慮が特に必要な州のひとつである。

教育において大切なことは、正しい方向づけをもった教育目標の設定と、それを具体化するためのすぐれた教育方法及び内容である。

筆者は、今後の自分自身の課題として、“教育指針(Texas州の)”の全体把握と同時に、日本の幼稚園教育要領に該当するものという性格をとらえる意味から、より深い検討をすすめたいと考えている。

※ 文中のさし絵は“Guide for the Education of Five-Year-Old Children in Texas”から写したものである。